DTM 作曲講座「スマホやタブレットを使って、歌を作ってみよう！」

開催日：2024 年 11 月 2 日
@アクトシティ浜松研修交流センター

DTM 作曲講座「スマホやタブレットを使って、自分の歌を作ってみよう！」の第1回、第2回を開催しました。ワークショップの様子をレポートでお届けします。

■ワークショップの概要と目的

このワークショップは、参加者が「自分の歌」を制作し、表現を通じて人に気持ちを伝える方法を学ぶことを目的に行われました。講師はジョン先生です。ジョン先生は、作曲家として、石原貴洋映画監督の音楽を数多く手掛け、『レッドリスト』『大阪少女』『大阪闇金』などの作品に音楽を提供しています。全 6 回のプログラムで構成され、参加者は作曲アプリ「BandLab」を使用しながら、イントロからサビまでの「ワンコーラス」を完成させることを目指します。また、制作した楽曲をショート動画形式にして SNS で発表する予定も盛り込まれており、これにより作品のアウトプットも学びの一環として体験できるプログラムになっています。

■ワークショップの流れと内容

ワークショップは段階的な構成が組まれ、音楽の基礎から実際の制作に至るまで、着実にスキルが身につくよう設計されています。第 1 回と第 2 回では、音楽の基礎知識の解説と簡単なコード入力、メロディ作成を行い、サビの歌詞の試作を行いました。第 3 回で「ワンコーラス」の作成に取り組み、第 4 回はミックス作業で曲の音量やバランスを整えます。そして第 5 回にはショート動画の制作が行われ、最終回では全員が成果を発表する予定です。

■参加者の様子と自己紹介

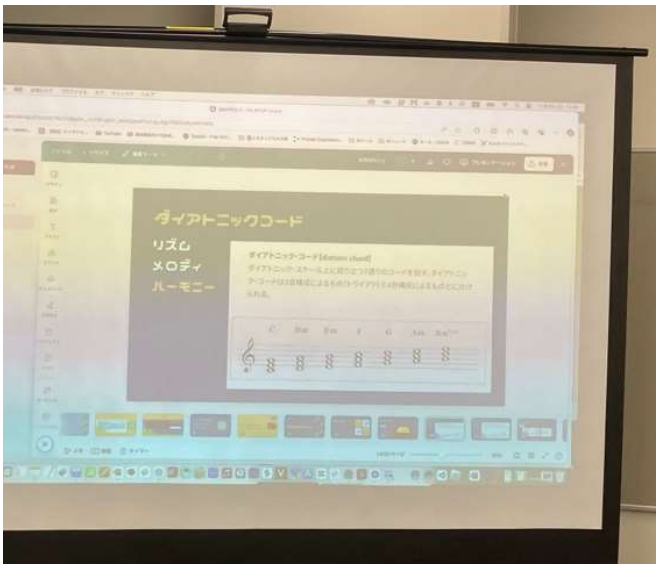
ワークショップ初日には、まず参加者が自己紹介を行い、それぞれの音楽経験やワークショップへの参加動機について共有しました。中にはピアノやギターの経験者、吹奏楽部で活動する生徒もおり、音楽に対する興味や意欲が伺える場面でした。また、好きな音楽ジャンルやアーティストの話題で会話が弾み、和やかな雰囲気の中でスタートしました。

■AI を活用した歌詞作成の体験

続いて、AI 技術を活用した楽曲制作も体験しました。「ChatGPT」を使用して歌詞を生成し、その生成した歌詞を基に「Suno AI」で楽曲を生成する実演が行われ、参加者はチームごとに「ゴジラと電車の合体」などユニークなテーマを決め、AI に指示して歌詞、メロディを作成しました。AI ツールの活用によって、これまでにない楽曲制作体験が提供され、創作の幅が広がりました。また、テーマに基づいたキーワード設定から歌詞を生成する流れを学ぶことで、AI の可能性と楽しさを実感する機会になったようです。

発表時には各チームが AI で生成した楽曲を披露し、チームメンバーと協力しながら自分たちのアイデアが形になっていくプロセスを楽しむ様子が印象的でした。AI の生成する歌詞やメロディがどれほどリアルに表現されるかに、参加者は驚きと新鮮な感動を覚えたようです。

■音楽制作の基礎知識と実践



講義では、音楽制作に必要な基礎知識も解説されました。音楽の基本構造である「メロディ」「リズム」「ハーモニー」が紹介され、「BandLab」を使ったコード入力の実習も行われました。
コードの響きが曲に与える印象の違いを実感し、ダイアトニックコードを使った基礎的なコード進行の組み立て方も学びました。また、安定と不安定のバランスを繰り返すことで曲の物語性や情緒を演出する手法が紹介され、音楽制作の奥深さを感じさせる内容となっていました。

さらに、メロディを打ち込む作業においては、繰り返しや上下反転などを利用して変化をつける方法が説明され、効率的にメロディを構築する方法も伝授されました。メロディの終わりには安定した音を配置し、曲の締まりを意識することで、より豊かな表現が可能になるそうです。

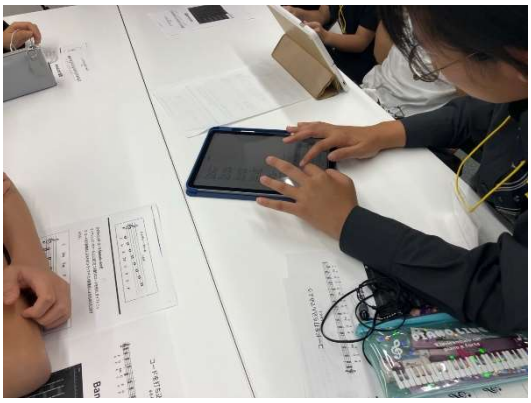
■楽曲のコンセプト作りとターゲット設定

午後のセッションでは、楽曲の「コンセプト」を明確にする作業が行われました。具体的には、楽曲のターゲットとなる人物像を設定し、その人に届けたいメッセージを考える練習です。ターゲットは実在する人でも架空の人物でもかまわないとのことで、誰に、どんなメッセージを伝えたいのかを深く考える機会が設けられました。
例えば、講師が自身の経験を交えながら、リスナーに前向きな気持ちを持ってもらうために行った制作過程が紹介され、対象を明確にすることが楽曲制作における表現を豊かにすることが実感できました。
ワークシートを使って、楽曲のテーマやターゲットに伝えたい感情、影響を具体的に考え、20 分間で楽曲のコンセプトを固めました。ペルソナを考え、曲のジャンルやテンポ感を決めることで、楽曲に一貫したテーマが生まれ、制作がスムーズになることを参加者は学んだようです。

■AI ツール使用時の注意と今後の課題

「ChatGPT」を利用した歌詞生成についても、安全な使用方法が強調されました。13 歳以上で使用可能なツールであり、個人情報を入力しないよう注意が促され、保護者の同意のもとで使用する手順が案内されました。これは、AI ツールが今後も音楽制作に取り入れられることを見据えたものであり、デジタルツールを活用する際の基本的なマナーやリテラシーを学ぶ機会にもなりました。

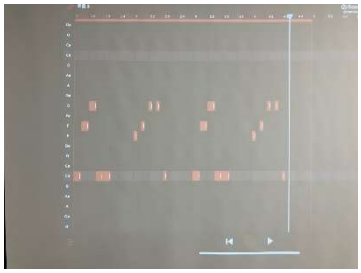
最終的には、AI と人間の役割分担についても議論され、AI の生成するパーツを取り入れることで音楽制作が簡単にできる一方、創造力や好奇心といった人間ならではの感性が楽曲に深みを与える点が強調されました。技術と感性が交わることで音楽に多彩な表現が加わり、AI を活用しつつも「自分らしさ」を残すことの重要性が参加者に伝わったようです。



■アプリを使って曲作り

続いて、楽曲制作の初心者向けの実践的なワークショップ。コード進行の選択や入力方法、テンポ設定などの基礎的な知識を段階的に学ぶ内容です。参加者はまず、定番のコード進行（例：王道進行や小室進行など）について説明を受け、それぞれの進行が曲に与える雰囲気について理解を深めます。例えば、王道進行は文字通り王道のコード進行で、明るくも切ない印象、小室進行はややダークで力強い雰囲気を生み出すなど、進行による音楽の表現が異なることが強調されました。

次に、各自で選んだコード進行を楽譜に従い入力し、テンポ（曲の速さ）を設定する作業が行われました。ここでは、曲のジャンルや雰囲気に応じて適切なテンポを選ぶ重要性が説明されました。ゆっくりとしたテンポは落ち着いた印象、速いテンポは活気のある印象を与えるため、意図する楽曲のイメージに応じて調整するよう指導されました。また、作業中に基本的な操作方法が細かく案内され、ループ機能やトラックのミュート・ソロ設定の使い方も説明され、実践的に音楽制作のツールを扱えるようになりました。
コード進行の入力後に音を重ねたりテンポを変更したりしながら、自身のイメージする曲を構築していきます。



■まとめ

ワークショップ初日は、AI ツールを活用することで、これまでにない発想や効率的な制作方法が学べ、同時に、創作における人間の感性の重要性を再認識する場にもなったようです。次回は、歌の録音方法やボカロの使い方について学びます。